

# 令和 7 年度小平市立小平第三小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

## 1 調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

### (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

## 3 各教科の調査結果の分析

### 【国語】

#### 状況の分析

#### 課題

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに関する正答率は、全国平均より 5.5 ポイント高い。

「書くこと」に関する問題と記述式の問題で正答率が全国平均よりも低い傾向があった。

「書くこと」について、内容のまとまりで段落をつくること、段落相互の関係をふまえて文章の構成を考えることに課題が見られた。また、目的や意図に応じて内容の軽重を考えること、文章と図表などを結び付けて読み取ることも苦手意識があると思われる。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

説明文を読む際には、デジタル教科書も活用しながら、段落を意識して読み、文章構成を考えることに重きを置き、文章を書くときにそれを活かせるようにする。作文の際には、どこをより詳しく書けば自分の考えが伝わりやすくなるかを考え、書き方を工夫できるようにする。また、日頃から文章と図表などを照らし合わせながら読むことを意識させる。

### 【算数】

#### 状況の分析

#### 課題

棒グラフから項目間の関係を読み取ることに關する正答率は、全国平均よりも 10.2 ポイント高くなっていた。

図形領域に関する問題と記述式の問題で正答率が全国平均よりも低い傾向があった。

図形については、平行四辺形や台形の性質について理解し、それを基に作図することと、三角形に分割することのできる図形の面積の求め方を、式や言葉で説明することに課題が見られた。また分数の加法での通分の理解に大きな個人差が見られた。

#### 学校で取り組む具体的な改善策

図形の性質の理解について具体物等を用いて丁寧に扱い、理解したことを用いて作図できるようにする。図形の面積の求め方を式や言葉を用いて説明できるようにするために、ペアやグループでの発表を取り入れながら筋道を立てて発表するための土台をつくっていく。

分数の加法については、共通する単位分数を意識して説明できるように、通分の意味をしっかりと考える時間を設けながら学習をすすめていく。

**【理科】****状況の分析****課題**

土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについてや、植物の受粉や発芽についての項目では正答率が全国平均よりも高い傾向があった。

「エネルギー」を柱とする領域の乾電池のつなぎ方では、全国平均よりも低い傾向が見られた。

身の回りの金属について、電気を通すもの、磁石に引き付けられる物についての知識が身に付いているかをみる問題、乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関する知識が身に付いているかどうかをみる問題で課題が見られた。

**学校で取り組む具体的な改善策**

電気を通すものと、磁石に引き付けられるものについては、実物に触れる時間と、その結果から分かったことをまとめる時間を十分に確保し、分かったことを整理して確実に知識を身に付けられるようにする。乾電池のつなぎ方についてはキットを使って実験する時間の確保と、直列、並列の乾電池のつなぎ方だけでなく、つなぎ方の違いでどのような結果になるのかまで理解できるよう意識して学習をすすめていく。

**【質問紙】****状況の分析****課題**

学校以外での読書習慣については、読書量の多い層の割合が、全国平均よりも1.8～5.8ポイント高い。一方で、国語の理解度についてはやや否定的な答えが4.7ポイント多い。

「毎日同じ時刻に寝ているか」については、全国平均よりも6.0ポイント否定的回答が多かった。

「国語の授業を理解できているか」についての質問では、全国平均よりも4.7ポイント低くなっているため、より多くの児童が読書習慣から読解力を身に付けられるようにしていくことが課題である。自分と違う意見について考えることについても4.0ポイント数値が下回っており、対話する力や考える力について課題が見られた。

**学校で取り組む具体的な改善策**

生活リズムを整えた上で、学校の授業では話し合い活動にしっかり取り組んでいくことと、学校内外での児童の読書時間を確保し、読書の楽しさを感じられるようにしながら読解力を身に付けさせることが必要である。朝の読み聞かせや読書月間の読書推奨キャンペーンの他、週に一度の朝読書の時間を全校の取り組みとして行い、定期的に読書時間を確保していくことで、本をより身近に感じられるようにしていく。

また、国語の授業だけでなく、全ての教科の授業で話し合い活動を取り入れることを意識して授業づくりを行い、いろいろな考え方があってよいことと、様々な意見から学ぶことの楽しさを味わえるようにしていく。